足立区都市農業公園「昔の農機具ワークシート」解説

◎農機具展示室ワークシートについて

　クイズを解きながら「昔の農機具展示室」を見学していただくことで、かつて行われていた足立の農業について楽しく学ぶことを目的に作成しました。昔の農機具展示室では、足立区民の方から寄贈された農機具も数多く展示しています。実際に使用されていた農機具を見て、足立に田畑が広がっていた頃の生活を想像してみましょう。小学校の社会科見学などにご活用ください。

Q1.足立区と同じ形はどれでしょう？
答え：②
解説：「足立の花卉栽培」「足立区の特産物」などの展示に足立区の形が描かれています。①は北区、③は葛飾区です。「足立」という地名が出てくる一番古い記録は、735 年です。発見された木簡に「武蔵国足立郡」とその名が記されており、「足立」という地名は奈良時代に起源がある古い地名です。その後様々な行政区画の変更が行われ昭和7年（1932 年）に現在の足立区の形になりました。

Q2.大八車の「はち」はどんな意味？
答え：②車体の長さ
解説：荷台の長さが8尺（約 2.4m）あったことから「大八」と呼ばれたという説があります。その他にも8人分の力があるので「代八」と呼ばれたという説も。収穫された農作物を運搬するのに活躍していました。

Q3.踏車は何のために使われていた？
答え：①田んぼに水を入れるため
解説：踏車は低い位置にある水路から高い位置にある田んぼへ水を入れるのに使われていました。人が上に乗って、足で踏みながら車を動かしました。

Q4.セリの収穫時に、長靴のように履いて使う道具の名前は？
答え：セリツミタンゴ
解説：足立区の本木では「本木セリ」が名産品でした。深い沼田で栽培し、収穫するため、中に入る際には長靴のような長い桶「セリツミタンゴ」を使用しました。全国的にも珍しい農具です。

Q5.「手風呂」って何に使う道具？
答え：手を暖めるのに使う道具
解説：「本木セリ」の収穫時期は 12 月から 3 月の厳冬期で、寒い時期に冷たい水の張ったセリ田に入って作業をしました。「手風呂」は小型の風呂桶のように仕組みで炭や練炭を使って中に入れたお湯を温めることが出来ます。手風呂をタライに乗せてセリ田に浮かべ、冷えた手を温めながら作業を行っていました。

Q6.石うすを使って何が作れるかな？考えてみよう！
答え：（例）きなこ、そば、小麦粉、抹茶（お茶の葉）など
解説：石臼は主に大豆や麦、米などの穀物を粉砕する道具です。何度も繰り返し石臼で挽くことでだんだん細かい粒になっていきます。穀物はそのまま食べるだけでなく、粉にする事で色々な料理に使う事ができるようになりました。

Q7.お米以外に足立区で作られていた特産品は？
答え：（例）「コマツナ」「カリフラワー」「レンコン」「セリ」「チューリップ」など
解説：千住にあった「やっちゃ場」と呼ばれる青物市場には、足立区産の多くの野菜が出回っていました。足立区は「江戸の台所」と呼ばれるほど多くの生鮮野菜を生産していました。足立で栽培された小松菜（あだち菜）は今でも足立区の特産品の一つです。本木セリやレンコンなど粘土質な土壌と豊富な水源を生かした栽培も盛んでした。またチューリップの促成栽培をはじめとする花卉栽培も行われていました。

Q8.お気に入りの道具を一つ見つけて、絵を描いてみよう！
自由回答
解説：昔の農機具展示室にある農機具・民具を自由に書いていただければ結構です。なぜそれを選んだのか、どんなところが気にいったかも聞けると良いと思います。

足立区都市農業公園 2023.08